

◆生育状況について

果実肥大は、平年並みだが、バラついている。主力もも品種の収穫が本格化した。

◆当面の重点作業について

1. 乾燥し過ぎる前に、収穫間際でも軽い散水を行う。収穫が遅い品種は、定期的なかん水により、健全な生育と、日焼け防止対策を実施する。また、降雨が多い場合は、排水対策を行う。
2. 枝倒れしないように支柱等を行う。
3. 各品種の除袋を適期に行うと共に収穫前管理を徹底すると共に、適期収穫に努める。
4. せん孔細菌病「夏型枝病斑」対策を徹底する。
5. 薬剤散布を適期に実施する。また、除袋後・収穫前防除と被害果除去により腐敗病・ミカンキイロアザミウマ防除対策を徹底する。
6. 腐敗病被害果が樹上にあると降雨で被害が拡大するので、まずは圃場内の伝染源の除去を目的に、被害果を土中へ埋めるか圃場外へ持ち出す。

◆マンガン欠乏対策について

毎年、マンガン欠乏が発生する園は、対策を実施する。

1. 施用時期：8月
2. 施用資材・施用量：硫酸マンガン 1樹当り0.5～1kg

◆川中島白桃・黄金桃収穫講習会について

下記日程により講習会を開催します。適期収穫・品質目揃いを統一する大切な講習ですので都合のよい会場で受講ください。

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
8月10日	月	午前11:00	篠ノ井 西部流通センター	徳武・伊藤
			篠ノ井 東部流通センター(荷受場)	外谷
			川中島 JA川中島支所	松橋
			更北 青木島店	根津
		午後 1:30	若穂 若穂営農資材センター	寺澤
		午後 2:00	篠ノ井 塩崎共選所	徳武
			川中島中津 今井神社	松橋
			更北 真島フルーツセンター	根津
		午後 3:00	松代 松代総合センター	伊藤
			若穂 若穂果実流通センター	寺澤
		午後 3:30	川中島御厨 斗女神社	松橋

なお、講習会以降が収穫始めではありません。適熟になったものは、講習会以前でも荷受いたします。また、未熟な場合は、適熟になってからご出荷ください。

◆除袋目安と管理について

1. 生育状況に十分考慮しながら、(高温干ばつで生育が遅れ、曇天多雨で生育が速い) 別記の日程を目安に地色の抜け具合を観察し適期に除袋作業を進める。

2. 除袋時の注意

- 1) 除袋が早すぎると、無袋のようになり、着色が遅れ、遅すぎると着色せず、軟化が早くなるので、注意する。一般的な桃は、下記の図1を参考にし、白っぽく淡い緑色になる頃が目安です。果実全体の地色が抜けた状態ではやや遅い。
- 2) 大玉から除袋を開始し、小玉や下枝・樹冠内部のものは上枝の除袋4～5日後に数回に分けて行う。最低でも上枝と下枝では生育差があるので2回程度に分けて除袋する。
- 3) もも二重袋を使用したものは、3～4日程度早めに外袋のみ除袋する。
- 4) 除袋時に、曇雨天が続くような場合は、除袋時期の目安より、2日程度早めに始める。
- 5) 老木や樹勢の弱い樹は、数日早く除袋する。樹勢の強い樹は、除袋を遅らせる。

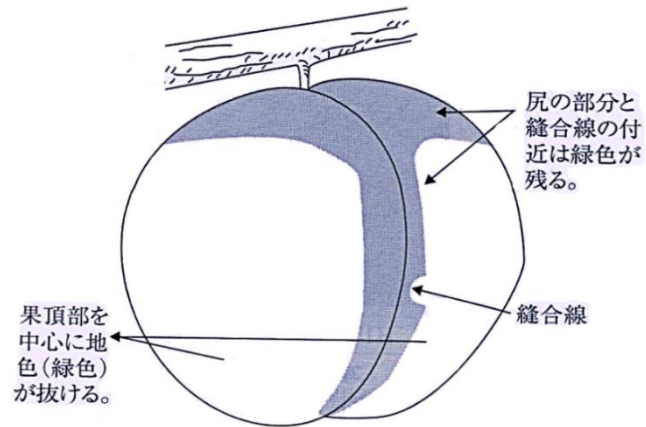


図1 果実の除袋目安

3. 着色管理

- 1) 葉摘みは、着色ムラをなくすため果実に密着している葉を摘む。1果当たり5枚程度限度とする。摘み過ぎないように注意する。摘み過ぎは、着色・糖度に悪影響が出やすい。また肌荒れ・日焼け・軟化等、品質低下になる場合がある。※もも二重袋を使用した場合は、葉摘みはしない。
 - 2) 反射シートは、有袋品種で、除袋直後から使用する。無袋品種で収穫予定日の10～14日前位から使用する。概ね着色したら又は、収穫開始2日前薬剤散布前にシートを外す。
 - 3) ③支柱立て、誘引を行い樹内部に日の光が入るようにする。
 - 4) ④着色先行となり、早採りを助長するので、熟度をよくみて判断し収穫する。
4. 一重袋での除袋時期の目安（あくまで目安です。今後の気象条件・自園の状況に合わせる）

品 種	時 期	目安の指標
川中島白桃	8月初頃	<u>収穫7～10日前頃</u>
秀峰	8月上中旬頃	

※目安の指標：着色が容易な品種ほど除袋は遅めに。着色が困難な品種ほど早めとしてください。

◆もも・ネクタリン収穫前薬剤散布について **※必ず実施する。**

収穫前の重要な病害虫防除になるため、必ず実施する。特に降雨が多い場合は、影響が大きい。

＜除袋後・無袋着色始め防除＞

1. 散布時期：有袋除袋後又は、無袋着色始め（収穫7～10日前頃） 実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：5000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	もも 収穫前	ネクタリン 収穫前	病害虫
アプローチBI	1,000倍	1000ml	—		—
スクレアフロアブル	3,000倍	33ml	前日	前日	灰星病・ホモプシス腐敗病
ⓈイカズチWDG	1,500倍	66g	前日	前日	モモハモリガ・ミカンキロアザミヤカ・シンカイムシ・ハマキムシ

＜収穫開始2日前防除＞

1. 散布時期：収穫開2日前 実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：5000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	もも 収穫前	ネクタリン 収穫前	病害虫
アプローチBI	1,000倍	1000ml	—		—
オンリーワンフロアブル	2,000倍	50ml	前日	前日	灰星病・ホモプシス腐敗病
エクシレルSE	5,000倍	20ml	前日	前日	モモハモリガ・ミカンキロアザミヤカ・シンカイムシ・ハマキムシ

＜共通留意事項＞

1. 除袋直後（ほとんど果面に日照を受けない状態）は、薬害（褐色の流れサビ斑・縞状の着色不良）が出やすい。除袋後、少なくとも1～2日程度は空けて実施する。
2. 「収穫前日」の使用時期は、収穫する開始24時間前までに散布が終了している必要がある。
3. 果柄部へ薬剤が届くよう丁寧に散布する。
4. 腐敗果を発見したら被害を拡大させないために、園外に持ち出すか除去し土中に埋める。
5. スクレアフロアブルも代えて、ミギワ20フロアブル4,000倍（水1000ℓ当り25ml・収穫前日）を使用してもよい。
6. イカズチWDGに代えて、アーデントフロアブル2,000倍（水1000ℓ当り50ml・収穫前日）又はⓈスカウトフロアブル2,000倍（水1000ℓ当り50ml・収穫前日）又はⓈテルスターフロアブル3,000倍（水1000ℓ当り33ml・収穫前日）を使用してもよい。

【もも薬剤防除】

◆白根白桃以降特別薬剤散布について

1. 散布時期：7月31日（金）～8月4日（火）

実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：5000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	もも 収穫前	ネク 収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10mℓ	—		—
ダコニール1000	1,000倍	100mℓ	前日	前日	灰星病
ディアナWDG	5,000倍	20g	前日	前日	シンクイムシ類・ハマキムシ類

3. 散布上の留意事項

- 1) 極晩生種の定期散布として行い、収穫中のもも・ネクタリンに飛散しないよう十分注意する。
- 2) ダコニール1000は、除袋直後に飛散すると薬害を発生する場合があるので、十分注意する。
- 3) ダコニール1000に代えて、ベルコートフロアブル2,000倍（水100ℓ当り50mℓ・収穫前日まで）を使用してもよい。
- 4) ハダニ類発生が心配される場合は、コロマイト乳剤1,000倍（水100ℓ当り100mℓ・収穫7日）又はカネマイトフロアブル1,000倍（水100ℓ当り100mℓ・収穫7日）を加用散布する。なお、収穫中、収穫直前の品種に飛散しないよう十分注意する。